北海道医療新聞 2016/10/21 掲載
(昭和43年7月23日第3種郵便物認可)

遺伝カウンセリングの最前線

① 北大病院臨床遺伝子診療部の紹介

北大病院臨床遺伝子診療部部長
矢部一郎（神経内科）

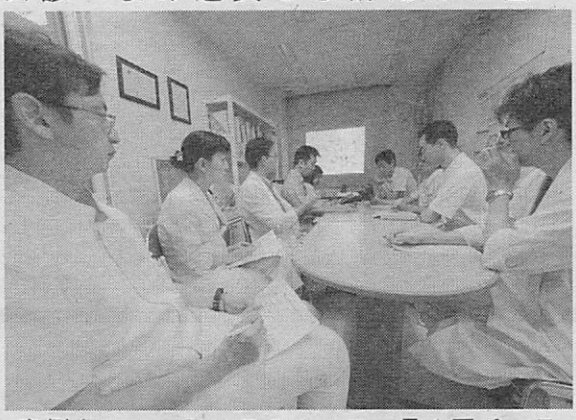
北大病院臨床遺伝子診療部は、2001年4月に施行された「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）、「遺伝的検査に関するガイドライン」（遺伝医学関連10学会）に基づき、同年12月に北大病院に設置された部署です。

初代部長は小林邦彦先生（小児科教授＝現名誉教授）であり、04年4月より佐々木秀直先生（神経内科教授）に引き継がれ、12年4月から現部長の私、矢部一郎（神経内科診療教授）が引き継いでいます。ほぼ全ての診療科に当診療部との仲介役を担う医師を配置し、横断的な遺伝子診療体制の構築を目指し努力しています。04年1月には日本人類遺伝学会から臨床遺伝専門医制度研修施設として認定され、北大病院における遺伝診療の教育的役割も担っています。13年度からは近年の社会的ニーズや北大病院がん診療連携拠点病院であることを鑑み、腫瘍領域の遺伝子診療にも活動の幅を広げました。14年度からは新規に専任の認定遺伝カウンセラーを雇用し、診療体制の更なる充実が図られ現在に至っています。

臨床遺伝学の進展と共に北海道全域から寄せられる遺伝カウンセリング依頼は増加の一途をたどっていて、ここ数年の遺伝カウンセリング延べ件数は年間1千件程度で推移。以前は年間200件弱だった出生前診断に関する遺伝カウンセリング数は、母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査（NIPT）が実施されるようになり飛躍的に件数が増加し、13年度以降年間500～650件で推移しています。

当診療部では月1回必ずミーティングを行い（写真）、その場で遺伝カウンセリングを実施した全ての例について検討し、問題点を整理共有し上級医から助言を得ることにより、限られた人員と診療時間であっても遺伝カウンセリング内容の質向上に取り組んでいます。

また、当診療部は各診療科で実施されるゲノム関連の自主臨床試験や医師主導治験を支援しています。ゲノム関連の研究には、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針により遺伝カウンセリング実施が可能な体制であることが必須条件となっていますので、当診療部の関与が無いと研究自体が承認されません。ゲノム情報を適切に扱い研究を進めていく上で、当診療部は重要な役割を担っていると自負しています。



定例カンファランスの1コマ。月1回ペースで開かれ、遺伝カウンセリングを行った事例を1症例ずつ検討する。医療者であれば誰でも参加可能だ。

遺伝医学の啓発活動として、主催講演会を定期的に開催することに加えて、遺伝性疾患の当事者とその家族に講演いただいています。このような講演は道内でもあまり例がなく、医療関係者が患者の生の声を聞く貴重な場となり、会終了後にマスコミ報道され、大きな反響を呼びました。研修医や学生に対しても、セミナーなどを通して最新の遺伝子診療を紹介する機会を設けています。

今後もさらなる体制の充実を図り、北海道における遺伝医療のモデルとなるよう努めていきます。今回から当診療部所属の医師および認定遺伝カウンセラーが10回にわたり連載します。少しでも皆様の遺伝医療についての理解が深まることを願っています。